拝啓　今年も早や歳末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園は、紅葉も終わりになりました。

今回は、小西芳之助先生の『コリント人への第一の手紙講解説教』からの引用の7回目ですが、今回のエンカウンターの13ページ、「佐藤一斎先生の教え」という項には、次のように書かれています。

「　佐藤一斎先生（江戸後期の儒学者、1772－1859）は、「幼にして学ばば、壮にして成すあり、壮にして学ばば、老いて衰えず。老にして学ばば、死して朽ちず」と言われました。……

競技の栄冠はいずれ朽ちるが、我々の受ける栄冠、永遠の生命は朽ちないものであります。目的が明確になってくると、我々一人一人にそれぞれ異なった務めが出て来ます。パウロは福音を宣べ伝える。私もパウロと同じ職責を持っています。各自がそれぞれ違う仕事をやる。運転手は運転を真剣にやる。仕事の質の高い、低い、それは人間の言うことです。神はそんなことを言いません。イエスは大工でした。人間の二大迷信の一つは、人間はこの世で終りであり、来世は無いと思うことであります。第2の迷信は、人は金を儲け、高い地位につければ、幸福であると思うことであります。」

佐藤一斎先生のこの言葉は、小西先生の大好きな言葉であり、私達はしばしば聞かされた言葉です。「老にして学ばば、死して朽ちず」という言葉を肝に銘じたいと思います。

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』12月5日

「真理

内村鑑三先生いわく、「吾人は、真理はただ考えただけではわからぬ。実行してみて分かる」と。

それで、ロマ書10章13節の「主の御名（みな）を呼び求める者は、すべて救われる」の真理も、ただ考えただけではわからぬ。主の名を称えて分かる。」

新渡戸稲造先生『一日一言』12月10日

「高の知れたるこの世に、ことさら争うほどの事はなはだ少なし。無上に貴きものは争わで得べし。日光も無償、月も代価なく、花も公開。小児の笑い、親の心、友の信義、神の恩恵、仏の照護は到る所にあふれあり。金銭を払うて獲る者は、皆値段に限りあるもののみ、金で買われぬ無限の宝を需（もと）むべし。」

松下幸之助先生『続道を開く』「春雷」

「長い人生。いろんな不安がある。いろんなおどろきがある。閃光一せん、眼のくらむ思いにおろおろするときもある。不安とおどろきに足がすくむときもある。
しかし安心するがいい。おろおろしなくてもいい。あなたにとらわれの心がない限り、あなたが素直な心でいる限り、そして自然の理を見失わない限り、そのおどろきも不安も、あなたが耐えに耐えぬいた末の新たな春を告げる前ぶれなのである。いそいそとした思いであってよいのである。」

内村鑑三先生『続一日一生』11 月 17 日

「不死の希望はその内に体の復活の希望を含む。朽ちざる新たなる体を与えらるるの希望なくして、永世不死の希望はむなしき希望である。霊は肉を古き衣の如くにぬぎ捨てて、欣然去って天上へのぼり行くにあらず、再び霊化されたる体としてこれを賜るの希望をもって、暫時これと別るるのである。この意味において「キリストは死を滅ぼし、福音をもて、生命と朽ちざる事（不死）とを明らかにせり」（テモテ後書 1・10）である。」

バークレー先生『続一日一章』11 月 19 日

「仕事は何よりも大切なものである。悲しみと孤独に閉ざされたさびしいとき、仕事ほど慰めになってくれるものはない。…

「仕事が出来なくなってもなお生きている、というようなことがありませんように」――これはジョン・ウェスレーが祈った有名な祈りである。

愛する者や友達を失うのはつらい。だが仕事の対象を失うのは悲劇である。

単純なもののゆえに神に感謝しよう。
家庭と愛するもののために神に感謝しよう。
友達のために神に感謝しよう。

カウマン先生『山頂を目指して』12 月 2 日

「与えなさい、
あなたの与えるものが小さくても
それでもなお、与える人でありなさい。
小さな泉が川になり、川は湾になり、
水を注ぎ出して海をつくる。
このように、あなたの小さな贈り物は
大きくなる。
天は、海から再び水を引き上げ、夕立とし、
泉に、その新しい力のすべてを供給する。
このようにして生まれた輪を通って
贈り物は回転する。
そして、人に祝福を与えることにより、
あたらしい祝福がもたらされるのだ。」

妻は、11 月 29 日に退院し、医師、看護師による訪問看護を受けながら自宅で治療に努めていますが、家庭や社会保障の仕組みについてよい勉強をさせて頂いております。

オミクロン株により新型コロナの感染が増えないように祈りますが、マスク、手洗い、うがいなどはこれまで同様注意され実行されて、お体には十分ご注意下さるようお祈り申し上げます。

12 月 24 日　山口周三

エンカウンターの読者各位